

## 災害時の応援体制を充実

多久市は6月6日、『大規模な災害時の応援に関する協定』を国土交通省九州地方整備局と結びました。この協定は、豪雨、洪水、地震や津波などの大規模な自然災害の発生や、発生する恐れがある場合に、市長からの応援要請によって支援を受けることができます。

応援要請を行うと、九州地方整備局は現地情報連絡員を派遣。被災状況を確認し、必要な支援を行います。具体的には、ヘリコプターで撮影した被災現場の映像配信や、必要な資材・機材の調達、応急・復旧工事の技術的支援など多岐にわたります。

横尾市長は「東日本大震災以降、自治体の防災力向上は、喫緊の課題。住民のみなさんとのネットワークや自治体の仲間との連携でお互い支え合い、安心安全をさらに高めたい」とあいさつしました。

市では、今回の協定によって、平常時から防災に関する情報提供などを行い、災害時の応援体制を充実させることで、市民の安心安全を高めます。



▲多久市で行われた調印式で、協定書に調印をする国土交通省九州地方整備局の是沢毅分析官と六角川・牛津川流域の首長ら



## 原子力災害に対する防災計画の見直しに着手 多久市防災会議

5月27日、多久市防災会議を開き、今年度の防災・水防に対する対応を協議しました。

国や県の行政機関や警察署、消防署などの職員25人が構成メンバーで、今回、新たに陸上自衛隊久留米駐屯地の特科連隊大隊長を委員に加え、連携を強化。それぞれに委嘱状を交付し、意識も高めました。

会議は、5月12日に行った多久市防災パトロールの結果報告に始まり、佐賀地方気象台から昨年の大雨災害に関する報告と今年の中長期の天気予報に関する報告が行われ、防災計画、水防計画に関する検討を行いました。

特に、3月11日に発生した東日本大震災および福島第1原子力発電所の事故を受け、原子力災害に関する対応が焦点となる中、会議に招いた九州電力(株)佐賀支店から『玄海原子力発電所における緊急安全対策について』の報告を受け、対応を協議。委員からは「ほんとうに安全なのか」「風の影響は」などの意見が出されました。

会議では、市民の安心安全の向上の観点から、今回の広範囲にわたる原子力災害の影響や、国・県の防災計画見直しに併せ、地域防災計画の見直しに着手することを全体で確認し、終了しました。

## 市長コラム

### 温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

### セレブレーション・オブ・ライフ

市長 横尾俊彦

雨が多いのに水無月という六月を越えると、いよいよ暑さ到来の七月。梅雨から台風シーズンまでは災害の発生しやすい時期で、市として万全の備えを念頭に防災にあたる。加えて、五月末の多久市防災会議では、原子力災害対策も重要と考え、防災計画に原子力災害の項目を新たに設け、国や県と連動し、安全安心向上をめざすことにした。

さて過日、大学の恩師・内山正熊教授(93歳)のお別れ会に参列した。福澤諭吉先生が開塾された慶應義塾の本校舎で催され、退官後二十八年にかかわらず三百名超のゼミ出身者が集った。まさに先生のお人柄の賜物と誰もが実感した。大学1年での最初の授業・西洋外交史は今も記憶に新しい。2年からゼミで親密にご指導いただき、模擬国連総会も開催した。先生は学生の怠慢を許さず授業中も厳格に諭された。態度の悪い生徒は駅まで追いかけて指導した逸話がいまも残っている。

そこには「真剣に準備された講義を、諸君は真摯に聴き学ぶ義務がある」というジェントルマン魂がある。どこまでも正義と理想を追求された。退官後も、これからは中国やアジアの時代だと、私財を投じ、苦勞を惜まず、中国からの留学生支援をされた。遺影にも求道者の威風が輝く。

「米国には、人生のまとめをセレブレーション・オブ・ライフ(人生の祝福)として祝う習慣がある」と先輩が教えて下さったが、それにふさわしい会だった。そのような祝福の時をめざし、私たちは各々の人生を生きる。自分らしい人生を追求する生き方をお互い大切にしたい。